

# フレームワークの概要及びセカンドパーティ・オピニオン 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ グリーンボンド

## 評価概要

サステナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループのグリーンボンドフレームワークは信頼性及び環境改善効果を有し、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスが、この評価に際して考慮したのは以下の要素です。



**調達資金の用途** 資金用途の対象となる適格カテゴリー（グリーンビルディング及び再生可能エネルギー）は、グリーンボンド原則 2018 に合致しています。サステナリティクスは、「適格グリーンプロジェクト」が世界において再生可能エネルギーの占める割合（生産量と消費量）を増加させ、調達資金充当先の不動産保有会社の全体的なエネルギー効率を改善し、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）のうち、特に「目標 7」と「目標 11」を推進するものと考えます。



**プロジェクトの評価及び選定** 株式会社三菱 UFJ 銀行のソリューションプロダクツ部は各適格クライテリアに従ってプロジェクト及び融資の選定における責任を有しています。プロジェクトは、第三者機関による認証と赤道原則に基づき付与したカテゴリーに従って選定されています。サステナリティクスは、これはマーケット・プラクティスに合致していると考えます。



**調達資金の管理** 三菱 UFJ フィナンシャル・グループは株式会社三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを通じてグリーンボンドで調達した資金をモニタリングして追跡管理することを表明しています。三菱 UFJ フィナンシャル・グループは調達した資金の全額を直ちに充当できない場合、未充当資金と同じ額を現金及び現金同等物、又は流動性の高い有価証券に投資します。これはマーケット・プラクティスに合致しています。



**レポート** 三菱 UFJ フィナンシャル・グループは年次でのアロケーション・レポート及びインパクト・レポートを開示予定です。両レポートは、グリーンボンドの概要、サステナリティクスによるコンプライアンスレビュー、資金充当状況に関する経営陣のアサーション、グリーンビルディング及び再生可能エネルギーのプロジェクトによる CO2 排出量削減データ、再生可能エネルギー起源の発電量 (kWh) が含まれます。サステナリティクスは三菱 UFJ フィナンシャル・グループのレポートをマーケット・ベスト・プラクティスであると評価します。

評価日	2018 年 8 月
発行体所在地	日本(東京)

### レポートセクション

はじめに.....	2
発行体の概要.....	2
フレームワークの概要.....	3
サステナリティクスのオピニオン.....	6
参考資料.....	11

本件に関するお問い合わせは、以下の Sustainable Finance Solution プロジェクト担当チームまでご連絡願います。

**Mihai Cojocaru (ティミショアラ)**

Project Lead  
mihai.cojocaru@sustainalytics.com  
(+31) 20 888 7292

**Wakako Mizuta (東京)**

Project Manager  
wakako.mizuta@sustainalytics.com  
(+81) 3 4510 7979

## 日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合

サステナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループのグリーンボンドフレームワークが 2018 年版国際資本市場協会 (ICMA) グリーンボンド原則 2018 と合致しているとの意見を表明します。また、サステナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループのグリーンボンドフレームワークと、信頼性の高いグリーンボンドの発行のためのプロセスと推奨事項を周知する日本のグリーンボンドガイドラインとの整合性を確認しました。

## はじめに

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ(以下、「MUFG」又は「同社」といいます。)は、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワーク(「フレームワーク」)を策定し、グリーンボンドの発行及び調達した資金をグリーンビルディング(MUFG が全額出資する商業銀行子会社の株式会社三菱 UFJ 銀行(「三菱 UFJ 銀行」)がファイナンスを実施する不動産保有会社の環境実績改善を目的とするプロジェクト)及び再生可能エネルギー発電(太陽熱発電、太陽光発電、陸上・洋上風力発電プロジェクトなどの新規及び既存の再生可能エネルギープロジェクト)に係る取得資金のファイナンス又はリファイナンスに充当します。

MUFG はサステナリティクスとの間で、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークを審査し、同グリーンボンドと国際資本市場協会(以下、「ICMA」<sup>1</sup>)といいます。)によるグリーンボンド原則 2018 との適合性、日本の環境省が策定したグリーンボンドガイドライン 2017 年版との適合性及びフレームワークの環境面での貢献についてセカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しています。

サステナリティクスは、当該審査の一環として、MUFG のグリーンボンドにおける調達資金の管理やレポーティングだけでなく、MUFG の事業プロセス及び想定される資金使途のサステナビリティ(持続可能性)への影響を理解するため、MUFG の管理部門の様々なメンバーと議論しました。さらにサステナリティクスは関連する公表文書及び非公開情報の審査も行いました。

この意見書は、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークの概要と当該フレームワークに対するサステナリティクスのオピニオンの 2 つのセクションで構成されています。

## 発行体の概要

三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、国内外で金融サービスを提供する日本最大の銀行持株会社であり、世界最大の金融機関の 1 つです。MUFG は、経営統合を経て 2005 年 10 月 1 日に誕生した金融持株会社で、東京に本社を置いています。MUFG は、法人・リテール事業本部、コーポレートバンキング事業本部、グローバル CIB 事業本部、グローバル・コマーシャルバンキング事業本部、受託財産事業本部、市場事業本部など複数の事業部門を擁しています。ブルームバーグ・ニュー・エナジー・ファイナンス(BNEF)のクリーンエネルギー及びエナジースマートテクノロジー2017 年リーグテーブルによると、MUFG はアセットファイナンス部門で世界最大のリードアレンジャーであり、合計 63 件のクリーンエネルギー及びエネルギースマート技術プロジェクトへのファイナンスを実施した実績を有しています。MUFG は世界のマーケットシェアの 7.96%に相当する総額 43 億米ドル以上のファイナンスを行いました<sup>2</sup>。MUFG は、責任ある金融、再生可能エネルギー及びエネルギースマート技術プロジェクト(グリーンビルディングを含む)は、「いかなる時代にあっても決して揺らぐことなく、常に世界から信頼される存在であること。時代の潮流をとらえ、真摯にお客さまと向き合い、その期待を超えるクオリティで応え続けること。長期的な視点で、お客さまと永い関係を築き、共に持続的な成長を実現すること。そして、日本と世界の健全な発展を支える責任を胸に、社会の確かな礎となること」という経営ビジョンである「私たちの使命」と合致した、競争上、極めて重要な優位性であると考えています<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> ICMA のグリーンボンド原則 2018 <https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

<sup>2</sup> BNEF のランキングは <https://about.bnef.com/blog/2017-league-tables-clean-energy-energy-smart-technologies/>で入手可能です。

<sup>3</sup> MUFG の経営ビジョンは <https://www.muftg.jp/profile/philosophy/>を参照して下さい。

## フレームワークの概要

グリーンボンド発行を目的として、MUFG は日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に準拠し、グリーンボンド原則 2018 が定める 4 つの柱(調達資金の使途、プロジェクトの評価・選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティング)に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。このフレームワークは MUFG が外部審査ガイドラインに従って策定したものであり、MUFG に帰属します。サステナビリティクスはフレームワークの概要を以下に掲載します。

### 調達資金の使途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアのいずれかを満たす資金のファイナンス又はリファイナンスに充当される予定です。

#### クライテリア 1 – グリーンビルディング

- グリーンボンドで調達された資金は、J-REIT(日本の不動産投資法人)が保有する適格グリーンビルディングに対して三菱 UFJ 銀行が実行した新規又は既存の融資に充当されます。
- 適格グリーンビルディングとは、以下のいずれかの認証をグリーンボンドの発行日又はいずれかのレポーティング日から 24 カ月以内に取得または将来に取得予定の不動産のことで<sup>4</sup>。
  - LEED:Platinum 又は Gold(ただし、CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - BREEAM:Outstanding 又は Excellent(ただし、CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - CASBEE:S ランク又は A ランク(ただし、CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - DBJ Green Building 認証:5 つ星又は 4 つ星(ただし、CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)

#### クライテリア 2 – 再生可能エネルギー

- グリーンボンドで調達された資金は、太陽熱発電、太陽光発電、陸上及び洋上風力発電プロジェクトの新規および既存の再生可能エネルギープロジェクトに対する融資に充当されます。
- すべてのプロジェクトは以下の適格クライテリアに適合する必要があります。
  - 以下の基準を全て満たす、新規及び既存の太陽熱発電、太陽光発電、陸上及び洋上風力発電プロジェクトにおける開発工事、運転又は施設拡張に関連する費用
    - ・ i) 赤道原則の категория-B 又は категория-C に分類され、且つ、ii) グリーンボンドの発行日から 24 カ月以内に調印されたプロジェクト

赤道原則によると、カテゴリーA のプロジェクトは、環境及び社会に対して重大な負のリスク及び／又は多様で回復不能又は前例のない悪影響を及ぼす可能性があります。カテゴリーB のプロジェクトは、環境及び社会への負のリスク及び／又は悪影響が限定的でごくわずかしかなく、概して当該立地固有のものであり、概ね回復可能であり緩和策によって容易に対処されます。カテゴリーC のプロジェクトは、環境及び社会への負のリスク及び／又は悪影響は最小限又は皆無です<sup>5</sup>。

<sup>4</sup> DBJ Green Building 認証スキームでは、認証体が認証年度のみを開示しており、認証月日は開示されておりません。したがって、DBJ Green Building 認証を取得している物件については、認証日が 24 カ月以上遡る物件が資金使途となることがありますが、3 年以上遡る物件が資金使途となることはないことを、MUFG は明示しています。

<sup>5</sup> 赤道原則：<http://equator-principles.com/>

## プロジェクトの評価及び選定プロセス

### プロジェクト選定における適格及び除外クライテリアの適用

適格グリーンビルディングの選定に関しては、三菱 UFJ 銀行ソリューションプロダクツ部不動産ファイナンスグループ REIT チームが、クライテリア 1 (前述した LEED、BREEAM、CASBEE、DBJ Green Building 認証を取得したグリーンビルディング) に適合したプロジェクトを選定します。また、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング (「MURC」) により開発された ESG 評価を取得した J-REIT に対する、リファイナンスを含む新規融資は優先的に選定対象となる場合があります。具体的には、MURC の J-REIT 向け ESG 評価で上位 3 ランクを取得した J-REIT のグリーンビルディング向けの新規融資において、「J-REIT 向け ESG 評価ローン」としての融資が実行される場合、プロジェクトの選定プロセスにおいて他のグリーンビルディングに対して優先されます。グリーンボンド調達資金が充当される全ての再生可能エネルギープロジェクトは「クライテリア 2」に適合しているかどうかに基づいて、三菱 UFJ 銀行のソリューションプロダクツ部プロジェクト環境室によって選定されます。また、適格再生可能エネルギープロジェクトは、三菱 UFJ 銀行ソリューションプロダクツ部プロジェクト環境室によって赤道原則に照らして評価されます。このプロセスには、環境及び社会への負のリスク及び悪影響が限定的又は最小限であるカテゴリー B 及びカテゴリー C に分類されたプロジェクトの選定が含まれます。適格プロジェクトを選定する際の最終判断は MUFG 財務企画部 CFO 室が行います。

### 環境目標

MUFG は、同社の「いかなる時代にあっても決して揺らぐことなく、常に世界から信頼される存在であること。時代の潮流をとらえ、真摯にお客さまと向き合い、その期待を超えるクオリティで応え続けること。長期的な視点で、お客さまと末永い関係を築き、共に持続的な成長を実現すること。そして、日本と世界の健全な発展を支える責任を胸に、社会の確かな礎となること。」という経営ビジョンである「私たちの使命」に合致した取り組みとして、同社の企業活動による環境への影響の軽減を目標とするグループ全体の CSR 委員会を設置しています。MUFG は国連グローバル・コンパクト、国連環境計画金融イニシアチブ (UNEP FI)、責任投資原則 (完全子会社である三菱 UFJ 信託銀行による署名) 及びカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト (CDP) に、三菱 UFJ 銀行は赤道原則に署名しており、(i) 赤道原則の順守、(ii) 気候変動対策に関連するコンサルティングサービスの推進、(iii) グリーンボンドの発行、(iv) 環境負荷を低減する商品とサービスの普及を通じ、環境目標を積極的に追及しています。MUFG は、再生可能エネルギー向け融資が、地球温暖化ガス削減に貢献し、CSR の柱である責任ある金融を事業運営に組み入れるための手段であり、新たに制定した「MUFG 環境方針」及び「MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」と整合すると考えています<sup>6</sup>。

### 環境リスク、社会的リスク低減のためのプロセス

グリーンビルディングに関して三菱 UFJ 銀行は、外部第三者機関 (LEED、BREEAM、CASBEE 及び DBJ Green Building 認証) による透明性の高いグリーンビルディング認証結果に基づき、全ての適格グリーンビルディングを選定します。また、J-REIT は、MURC の J-REIT 向け ESG 評価を取得することで、サステナビリティ課題へのマネジメントについて評価を受けることも出来ます。

再生可能エネルギーに関して三菱 UFJ 銀行は、再生可能エネルギーに関連する環境及び社会的リスクに対処するため、社内の環境及び社会的リスクアセスメントプロセスに基づき、プロジェクトを赤道原則に従ってカテゴリー A、B 又は C のいずれかに分類しています。このプロセスの一環として、三菱 UFJ 銀行はプロジェクトの環境及び社会への悪影響が最小限、限定的、又は深刻な可能性について、国際金融公社 (IFC) の環境及び社会の持続可能性に関する 8 つのパフォーマンス基準に基づいて評価します。それぞれのパフォーマンス基準では限定的なリスクや重大なリスクが特定されており、三菱 UFJ 銀行の社内プロセスはプロジェクト環境室に対し、お客様と協力してこれらの環境及び社会的リスクとそのインパクトを各パフォーマンス基準に基づいて評価・管理することを要求しています。このプロセスを通じて付与したプロジェクトの最終的なカテゴリーについては、PwC サステナビリティ合同会社 (PricewaterhouseCoopers Sustainability LLC) によって審査されています。最新の PwC サステナビリティ保証報告書は MUFG のウェブサイトでも参照いただけます<sup>7</sup>。

<sup>6</sup> MUFG は「MUFG 環境方針」及び「MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」を 2018 年 5 月 15 日に制定しました。内容は [https://www.mufig.jp/vcms\\_lf/news/pressrelease-20180515-005.pdf](https://www.mufig.jp/vcms_lf/news/pressrelease-20180515-005.pdf) を参照してください。

<sup>7</sup> 直近の PwC サステナビリティ保証報告書は [https://www.mufig.jp/csr/juten/sustainability/sekidou/pdf/independent\\_assurance2017.pdf](https://www.mufig.jp/csr/juten/sustainability/sekidou/pdf/independent_assurance2017.pdf) で入手可能です。

## 調達資金の管理

MUFG は三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを使用して適格グリーンプロジェクトへの資金の充当状況をモニタリング及び追跡管理します。債券を発行するのは MUFG ですが、調達された資金は MUFG の全額出資子会社である三菱 UFJ 銀行に融資されます。MUFG は MUFG と三菱 UFJ 銀行の間で締結された融資契約に基づき、債券によって調達資金を受け取るのとほぼ同時に、それと同額の資金を三菱 UFJ 銀行に送金します。調達した資金の全額が適格グリーンプロジェクトに充当されるまで、三菱 UFJ 銀行は未充当額と同額を現金及び現金同等物及び／又は流動性の高い有価証券に投資する予定です。

## レポートニング

### 資金充当状況レポートニング

MUFG は少なくとも全額が充当されるまで 1 年毎に、また、重要な変化がある場合には適時に、調達資金の充当状況に関する情報を提供します。グリーンボンドで調達した資金の充当に関する経営陣のアサーションは、サステナビリティクスによるコンプライアンスレビューとともに、全額が充当されるまで 1 年毎に提供されます。資金充当状況レポートニングは同社のウェブサイトで行われます<sup>8</sup>。

### インパクト・レポートニング

MUFG は以下の内容を含むインパクト・レポートをグリーンボンドが残存する限り、毎年実施します。

- グリーンビルディング及び再生可能エネルギープロジェクトにおける CO2 排出削減量
- 再生可能エネルギープロジェクトにおける発電量 (kWh)

レポートニングは同社のウェブサイトで行われます<sup>9</sup>。

## コンプライアンスレビュー

MUFG はグリーンボンドの発行から 1 周年を迎える前に、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークの順守状況を評価するため、MUFG のグリーンボンドによって調達された資金の充当状況の審査をサステナビリティクスに委託する予定です。この審査は、MUFG のグリーンボンドで調達する資金の全額が充当されるまで毎年実施されます。MUFG が投資家関係のウェブサイトで公開する審査報告書はサステナビリティクスが作成する予定です。毎年の審査によって万一、資金が三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークに準拠しない活動に充当されていることが特定された場合、MUFG はそれに対応する金額を三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークに準拠する別の融資活動に充当する予定です。

<sup>8</sup> 資金充当状況レポートニングは <https://www.mufig.jp/english/csr/juten/sustainability/greenbond/> で閲覧できるようにする予定です。

<sup>9</sup> インパクト・レポートニングは <https://www.mufig.jp/english/csr/juten/sustainability/greenbond/> で閲覧できるようにする予定です。



## サステナリティクスのオピニオン

### セクション 1: 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークに関するサステナリティクスのオピニオン

#### 概要

サステナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークが信頼性及び環境改善効果を有し、同社の企業サステナビリティ戦略とその目標に合致しており、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件及び日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスは、MUFG のグリーンボンドフレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

#### 調達資金の使途

- 資金使途の対象となるグリーンビルディングと再生可能エネルギーの適格クライテリアは、グリーンボンド原則における環境改善効果を有するプロジェクト・カテゴリーとして認定されています。
- 国内外の定評のある第三者認証機関によるグリーンビルディング評価基準 (LEED、BREEAM、CASBEE、DBJ Green Building 認証) を参照し、上位 2 レベルの認証を取得した不動産を対象にしています。これはマーケット・ベスト・プラクティスです。
- サステナリティクスは 2 つの調達資金使途カテゴリーを肯定的に評価しており、適格グリーンプロジェクトが世界において再生可能エネルギーの占める割合 (生産量及び消費量) を増加させ、温室効果ガス排出量を抑制し、国際連合が定める持続可能な開発目標 (SDGs) の「目標 7」と「目標 11」を前進させるものと考えています。グリーンビルディング認証に関するサステナリティクスの評価については参考資料 1 を参照ください。また、環境改善効果及び補足事項に関する情報はセクション 3 を参照ください。
- MUFG の適格グリーンプロジェクトのロックバック期間は 24 カ月であり、これは投資家の選好と合致するものです。適格グリーンビルディングに関しては、グリーンビルディングの範囲を、グリーンボンド発行日又はいずれかのレポーティング日から遡り 24 カ月以内に適切な認証を取得した不動産に限定することを、MUFG より確認しました<sup>10</sup>。

#### プロジェクトの評価及び選定プロセス

- MUFG 社内の適格グリーンプロジェクトの評価及び選定プロセスは、マーケット・プラクティスに則り行われています。適格なプロジェクトと融資明細は、それぞれ三菱 UFJ 銀行ソリューションプロダクツ部によって選定されます。グリーンビルディングの選定は、適格クライテリアにて概要の説明がある通り、グリーンビルディング認証基準に基づいて行われます。グリーンビルディング関連融資のうち、MURC の J-REIT 向け ESG 評価にて、上位 3 ランクのいずれかを取得している J-REIT への「J-REIT 向け ESG 評価ローン」は、優先的に適格グリーンプロジェクトに選定されます。再生可能エネルギープロジェクトに関しては、赤道原則などの国際基準が導入されています。

#### 調達資金の管理

- MUFG は三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを通じてグリーンボンドで調達した資金をモニタリングして追跡管理することを約束しているため、同社の調達資金の管理はマーケット・プラクティスと合致しています。調達した資金の全額を適格グリーンプロジェクトに直ちに充当しない場合、三菱 UFJ 銀行は未充当資金と同じ額を現金及び現金同等物、又は流動性の高い有価証券に投資します。

#### レポーティング

- MUFG は、毎年のインパクト・レポーティングに加え、少なくとも全額が充当されるまで 1 年毎に、また、重要な変化がある場合には適時に、調達資金の充当状況に関するレポートを提供することを約束しています。サステナリティクスによるコンプライアンスレビューは全額が充当されるまで年次審査の形で実施され、グリーンボンドで調達した資金の充当状況に関する経営陣のアサーションは全額が充当されるまで 1 年毎に提供されます。グリーンビルディングプロジェクト及び再生可能エネルギープロジェクトの CO2 排出量削

<sup>10</sup> DBJ Green Building 認証スキームでは認証体が認証年度のみを開示しており、認証月日は開示されておりません。したがって、DBJ Green Building 認証を取得している物件については、認証日が 24 カ月以上遡る物件が資金使途となることがありますが、3 年以上遡る物件が資金使途となることはないことを、MUFG は明示しています。

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

減データと再生可能エネルギー起源の発電量(kWh)で構成されるインパクト・レポートも提供されます。サステイナリティクスは、MUFG のレポートへのコミットメントの範囲と詳細さが、独立した外部機関の審査とともに、マーケット・ベスト・プラクティスと合致していると考えます。

### グリーンボンド原則 2018 への適合性

サステイナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則 2018 の 4 つの要件に適合していると判断しています。詳細については、グリーンボンド/グリーンボンドプログラム外部機関レビューフォーム(参考資料 3)を参照してください。

### 日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に適合

サステイナリティクスは、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワークと、信頼性の高いグリーンボンドの発行のためのプロセスと推奨事項を周知する日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版との適合性も評価し、適合していると判断しています。

ICMA グリーンボンド原則 2018(GBP)と日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版 <sup>11</sup>	GBP 及び日本のグリーンボンドガイドラインの適合性	日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版との適合性についてのサステイナリティクスのコメント
1.調達資金の使途	適合	MUFG の適格カテゴリー(グリーンビルディング及び再生可能エネルギー)は、日本のグリーンボンドガイドライン 2017 年版における明確な環境改善効果をもたらすものとして認められます。また、グリーンボンドで調達した資金の使途、グリーンプロジェクトのカテゴリー、更には、マイナスの影響を緩和するプロセスは、いずれも投資家向けフレームワークで説明されています。
2.プロジェクトの評価及び選定プロセス	適合	MUFG は、その CSR 目標を通じて、グリーンビルディング及び再生可能エネルギーの開発を支えることによって温室効果ガスを削減することを明確な目標に掲げています。さらに MUFG では、適格プロジェクトの評価・選定に関して、三菱UFJ銀行のソリューションプロダクツ部プロジェクト環境室と三菱UFJ銀行ソリューションプロダクツ部不動産ファイナンスグループ REIT チームが担当します。適格プロジェクトの内、グリーンビルディングに関しては、前述の LEED、BREEAM、CASBEE、DBJ Green Building 認証結果に、再生可能エネルギープロジェクトに関しては、赤道原則に適合した適格クライテリアに基づいて選定されます。なお、MURC の J-REIT 向け ESG 評価を受け、上位 3 ランクを取得した J-REIT のグリーンビルディング向け新規融資において、「J-REIT 向け ESG 評価ローン」として融資が実行さ

<sup>11</sup> 環境省グリーンボンドガイドライン 2017 年版は、[http://www.env.go.jp/policy/greenbond/gb/greenbond\\_guideline2017.pdf](http://www.env.go.jp/policy/greenbond/gb/greenbond_guideline2017.pdf) で入手可能です。

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

		れる場合、そのプロジェクトは、適格グリーンプロジェクトに優先充当されます。
3.調達資金の管理	適合	MUFG のフレームワークは、三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを使用して調達資金を追跡管理し、未充当資金については同じ額を現金、現金同等物、及び／又は(すべての関連情報を投資家に説明する)流動性の高い有価証券に投資すると明確に説明しています。
4.レポートニング	適合	MUFG は、グリーンボンドに関するレポートニングを毎年発行し、それにはグリーンボンドの概要、サステナビリティクスによる外部レビュー、グリーンボンドで調達した資金の充当状況に関する経営陣のアサーション、グリーンビルディングプロジェクト及び再生可能エネルギープロジェクトの CO2 排出量削減データ、再生可能エネルギー起源の発電量 (kWh) が記載されることを確認しています。

## セクション 2: 発行体のサステナビリティ戦略

### フレームワークによる発行体のサステナビリティ戦略への貢献と過去のパフォーマンス

MUFG は、「長期的な視点で、お客さまと永い関係を築き、共に持続的な成長を実現すること。そして、日本と世界の健全な発展を支える責任を胸に、社会の確かな礎となること。」という経営ビジョンである「私たちの使命」と合致した環境目標として、i) 再生可能エネルギー事業の開発を支えることを目的としたプロジェクトファイナンスに関与する、ii) 地球温暖化対策に取り組むお客様を助けるコンサルティングサービスを提供する、iii) 事業の環境リスクを最小化しようとする企業を支援する、の 3 つを策定しています<sup>12</sup>。同社は様々な活動を通じてこれらの目標を追求しています。そうした活動には、低炭素経済への移行を支えるグリーンテクノロジーの普及を支え、日本と世界における再生可能エネルギーの成長を加速させる一助となるという強い意欲が込められています<sup>13, 14</sup>。MUFG は同社のサステナビリティ戦略を補完するため、2016 年と 2018 年に 2 つのグリーンボンドを発行し、合計 29 件の再生可能エネルギープロジェクト及びエネルギー効率化プロジェクトの実施に役立てました。これらのプロジェクトの投資額は合計 12 億 5,600 億ドル、創出された再生可能エネルギー発電能力は合計 84 億 1,100 万 kWh、推定される年間 CO2 排出削減量は合計 430 万トンに上ります。MUFG は地球温暖化対策に関するコンサルティングサービスも提供しており、日本の二国間クレジット制度に基づく企業向け資金調達スキームを開発しています。

サステナビリティクスは MUFG のミッション、同社の環境目標、さらには責任ある金融のための取り組みを審査した後、MUFG のグリーンボンドの発行が同社のサステナビリティへのコミットメントと合致していると考えています。

### プロジェクトに伴う環境及び社会的リスクに対処する十分な体制整備

サステナビリティクスはグリーンビルディング及び再生可能エネルギー開発プロジェクトによって、開発業者が労働者の健康及び安全リスク、又は意図しない廃棄物と排水排出、火災リスク、騒音、粒状物・粉塵汚染などの環境及び社会的リスクにさらされる可能性があり、結果的に資金の出し手である MUFG もレピュテーションリスクにさらされる可能性があるとして認識しています。しかしながら、MUFG は日本で施行されているすべての法律及び規制を順守し

<sup>12</sup> MUFG Report 2018 (統合報告書) : <https://www.mufg.jp/ir2018/pdf/all.pdf> で入手可能です。

<sup>13</sup> MUFG 企業の社会的責任 : [https://www.mufg.jp/csr/pickup/201806\\_04/](https://www.mufg.jp/csr/pickup/201806_04/)

<sup>14</sup> MUFG 環境への取り組み : <https://www.mufg.jp/csr/environment/business/>



ているだけでなく、プロジェクトを(グリーンビルディングプロジェクトに関しては)第三者機関の認証結果に、(再生可能エネルギーに関しては)赤道原則に基づいて選定する考えを表明しました。

サステナリティクスは、MUFG の環境・社会ポリシーフレームワークと J-REIT を対象とした(充当する融資の優先順位付けに関連付けられた)MURC の ESG 評価手法の適用について、同手法が環境・社会・ガバナンス上のリスクを考慮し、ESG リスクの評価スクリーンも実施された適格グリーン融資を優先可能としていることから、前向きに評価しています。(MURC の J-REIT 向け ESG 評価の概要については参考資料 2 を参照してください。)同様に、サステナリティクスは、赤道原則のリスク管理フレームワークと MUFG の環境・社会ポリシーフレームワーク<sup>15</sup>が、再生可能エネルギープロジェクトの開発に伴う環境及び社会的リスクを管理するための堅牢で信頼性の高いガバナンスを提供すると考えています<sup>16</sup>。

サステナリティクスは以上を総合的に判断し、第三者機関のフレームワーク、社内ガイドライン、及び MURC の J-REIT 向け ESG 評価に基づく MUFG の環境及び社会的リスク・ガバナンスは、同社の事業が日本の規制を順守していることと併せて、同社が適格グリーンプロジェクトに関連する環境及び社会的リスクを適切に特定して緩和するための体制を整えていることへの確証を与えていると考えています。

### セクション 3: 調達資金の用途によるインパクト

#### 日本のグリーンビルディング及び再生可能エネルギー発電の重要性

日本政府は 2011 年の東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故を受けて、2014 年 4 月に第 4 次基本エネルギー計画を発表しました<sup>17</sup>。同計画ではエネルギー政策の主要目標として、エネルギー安全保障、経済効率、環境保護とともに安全性を掲げ、日本のエネルギーミックスを再調整するための再生可能エネルギー発電の推進を支援するとしています。2018 年 7 月に始まった日本の第 5 次戦略エネルギー計画<sup>18</sup>では、再生可能エネルギー発電をパリ気候変動枠組条約(パリ協定)に向けた日本の国別約束草案(INDC)を裏付ける主要措置と位置づけ、再生可能エネルギーに向けて新たに導入した日本の立場を再確認しました。日本は温室効果ガス排出量を 2030 年までに 26%削減し、2050 年までには 80%削減することを約束し<sup>19</sup>、国民の財政負担の軽減、固定価格買い取り制度の適切な利用と見直し、送電線網の保守と運用ルールの一連の具体的措置を実行しました<sup>20</sup>。サステナリティクスは、MUFG による再生可能エネルギープロジェクトの資金調達について、クリーンエネルギーの発電とそのエネルギーミックスの再調整を支援する日本の政策と合致していることから、ポジティブな見方をしています。MUFG による再生可能エネルギープロジェクトの資金調達は、日本の低炭素エネルギー生産能力を拡大するとともに安全なエネルギーの創出の促進に貢献し、政府の政策に合致しています。

これとは別に、日本の建物が同国のエネルギー消費の 28%以上を占めており<sup>21</sup>、環境省の中央環境審議会の推定によると、省エネルギービルディングなどの低炭素投資の推進にさらに 135 兆円から 163 兆円の投資が必要です<sup>22</sup>。サステナリティクスは、平均を上回る認証レーティングを取得したグリーンビルディングに投資するという MUFG の提案は、脱炭素経済に向けた日本の取り組みに貢献する同社の強靱なフレームワークを確実なものにするとの意見を表明します。

<sup>15</sup> MUFG は環境・社会ポリシーフレームワークを 2018 年 7 月 1 日から適用しました。内容は [https://www.mufig.jp/vcms\\_lf/news/pressrelease-20180515-005.pdf](https://www.mufig.jp/vcms_lf/news/pressrelease-20180515-005.pdf) を参照してください。

<sup>16</sup> The Equator Principles Association Members & Reporting (英文) <http://equator-principles.com/members-reporting/>

<sup>17</sup> 日本の第 4 次基本エネルギー計画は 2014 年 4 月に公表されました。( [http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic\\_plan/pdf/140411.pdf](http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/140411.pdf) で入手可能)

<sup>18</sup> 日本の第 5 次基本エネルギー計画は <http://www.meti.go.jp/press/2018/07/20180703001/20180703001-1.pdf> で入手可能です。

<sup>19</sup> 長期低炭素ビジョンは <https://www.env.go.jp/press/103822/105478.pdf> で入手可能です。

<sup>20</sup> エネルギー 2018 : 日本 (英文) は <https://www.globalgalinsights.com/practice-areas/energy-laws-and-regulations/japan> で入手可能です。

<sup>21</sup> Energy Consumption and Mitigation Technologies of the Building Sector in Japan (英文) からの抜粋

( [http://www.inive.org/members\\_area/medias/pdf/Inive%5CIAQVEC2007%5CMurakami\\_2.pdf](http://www.inive.org/members_area/medias/pdf/Inive%5CIAQVEC2007%5CMurakami_2.pdf) で入手可能)

<sup>22</sup> Environmental Finance Programs in Japan (英文) のサマリー ( [https://www.env.go.jp/en/policy/economy/efp/summary\\_EFP.pdf](https://www.env.go.jp/en/policy/economy/efp/summary_EFP.pdf) で入手可能)

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

### 「持続可能な開発目標」(SDGs)との合致/への貢献

「持続可能な開発目標」(SDGs)は持続可能な開発のための 2030 年アジェンダを構成するものとして 2015 年 9 月に策定されました。MUFG のグリーンボンドは以下の SDG 目標を推進するものです。

調達資金の用途のカテゴリ	SDG	SDG ターゲット
グリーンビルディング	11. 住み続けられるまちづくりを	11.6 2030 年までに、大気質、自治体などによる廃棄物管理への特別な配慮などを通じて、都市部の一人当たり環境影響を軽減する
再生可能エネルギー	7. 安価でクリーンなエネルギー	7.2 2030 年までに世界全体のエネルギー構成における再生可能エネルギーの比率を大幅に高める

## 結論

MUFG は、グリーンボンドの発行を通じて、グリーンビルディング(三菱 UFJ 銀行がファイナンスを実施する不動産保有会社の環境性能の改善を目的としたプロジェクト)や再生可能エネルギー発電(太陽熱発電、太陽光発電、陸上・洋上風力発電プロジェクトなど新規及び既存の再生可能エネルギープロジェクト)に関連するファイナンス又はファイナンスに必要な資金を調達する予定です。

MUFG のグリーンビルディングに関する適格クライテリアは、LEED、BREEAM、CASBEE 及び DBJ Green Building 認証による第三者認証基準に基づいています。MUFG は、適格性の閾値を認証の上位レベルに設定することにより、環境にプラスのインパクトをもたらす堅牢なフレームワークを確実なものにしています。また、サステナリティクスは MUFG が(再生可能エネルギープロジェクトの)プロジェクト評価及び選定プロセスに赤道原則を組み入れたことについてポジティブな見方をしており、グリーンビルディング及び再生可能エネルギープロジェクトに共通する環境的及び社会的リスクを適切に特定する体制が十分に整っていると考えます。

サステナリティクスは、グリーンボンドによって資金が調達された適格グリーンプロジェクトが、世界の再生可能エネルギー発電の比率向上と日本におけるグリーンビルディングのエネルギー及び資源効率の改善に大きく貢献し、日本政府の政策と戦略と合致すると考えています。この意味でサステナリティクスは、適格グリーンプロジェクトが MUFG の全体的なサステナビリティ戦略と合致し、国際連合が定める持続可能な開発目標(SDGs)の「目標 7」と「目標 11」を推進することを重要な点として考慮しました。

サステナリティクスは以上を総合的に判断し、MUFG がグリーンボンドを発行する体制を十分に整えており、MUFG グリーンボンドフレームワークは信頼性が高く、堅牢で、グリーンボンド原則の 4 つの柱と合致していると考えます。

## 参考資料

### 参考資料 1: グリーンビルディング認証スキームの概要と比較

	LEED <sup>23</sup>	BREEAM <sup>24</sup>	CASBEE 不動産評価認証ランク <sup>25</sup>	DBJ Green Building 認証制度 <sup>26 27</sup>
<b>背景</b>	LEED (Leadership in Energy and Environmental Design) は、世界中で使用されている居住用及び商業用不動産向けの米国の認証制度です。LEED は非営利団体である米国グリーンビルディング協議会 (USGBC) によって開発され、建築物の設計、建設、保守及び運用を評価しています。	BREEAM (英国建築研究所建築物性能評価制度) は当初、英国の建築研究所 (BRE) によって 1990 年に発行され、新築、改築、増築に使用されています。	CASBEE 不動産評価認証 (建築環境総合性能評価システム: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) は、日本におけるグリーンビルディング管理制度であり、建築物の環境性能や建築環境を評価し格付する手法です。CASBEE 不動産評価認証には、評価対象のスケールに応じた、「住宅系」、「建築系」、「街区系」及び「都市系」の 4 つの評価ツールがあります。	DBJ Green Building 認証制度は、2011 年に日本政策投資銀行が創設した認証制度であり、一般財団法人日本不動産研究所 (JREI) との業務提携により運営されています。同認証制度は、日本における基準の一つとして認識されています <sup>28</sup> 。同認証制度は、オフィスビル、ロジスティクス、レジデンス、商業施設に対して取得可能です。
<b>認証レベル</b>	Certified Silver Gold Platinum	Pass Good Very Good Excellent Outstanding	C ランク (劣る) B- ランク (やや劣る) B+ ランク (良い) A ランク (大変良い) S ランク (素晴らしい)	1 つ星 (十分な「環境・社会への配慮」がなされたビル) 2 つ星 (優れた「環境・社会への配慮」がなされたビル) 3 つ星 (非常に優れた「環境・社会への配慮」がなされたビル) 4 つ星 (極めて優れた「環境・社会への配慮」がなされたビル) 5 つ星 (国内トップクラスの卓越した「環境・社会への配慮」がなされたビル)
<b>評価領域: 環境プロジェクト・マネジメント</b>		環境評価カテゴリーの「マネジメント」は、プロジェクト・マネジメント、導入、環境外乱が最小限の作業現場、利害関係者の関与など様々な側面に対応しています。	CASBEE 不動産評価認証は、不動産の内側と外側という 2 つの主要ファクターを評価し、各ファクターは、Q (建築物の環境品質 Quality)、L (建築物の環境負荷)	DBJ Green Building 認証制度では、建設仕様と環境性能に加え、次のファクターが評価されます - 防災・防犯対策 - テナントにとっての快適性及び利便性 - 周辺環境との調和

<sup>23</sup> LEED 認証スキームに関する詳細は <https://new.usgbc.org/leed> を参照してください。

<sup>24</sup> BREEAM 認証スキームに関する詳細は <https://www.breeam.com/> を参照してください。

<sup>25</sup> 建築環境総合性能評価システム (CASBEE), BASBEE : <http://www.ibec.or.jp/CASBEE/certification/certification.html>

<sup>26</sup> 認証の概要、日本政策投資銀行 : [http://www.dbj.jp/en/service/finance/g\\_building/outline.html](http://www.dbj.jp/en/service/finance/g_building/outline.html)



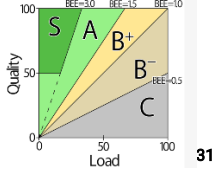

<sup>27</sup> DBJ Green Building 認証、日本政策投資銀行 : [http://www.dbj.jp/service/finance/g\\_building/outline.html](http://www.dbj.jp/service/finance/g_building/outline.html)

<sup>28</sup> Japan sharpens its green building focus, Read Views (英文) : <https://www.jllrealviews.com/places/japan-sharpens-its-green-building-focus/>

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

			Load)の両側面から評価されます。	- ステークホルダーとの協働 (テナント及び投資主が含まれる) - 環境 IR 活動
<b>評価領域: 建築物の環境性能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー及び大気</li> <li>持続可能な敷地</li> <li>立地と交通</li> <li>材料と資源</li> <li>水の効率性</li> <li>室内環境の質</li> <li>デザインの革新性</li> <li>地域別重み付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー</li> <li>土地利用とエコロジー</li> <li>汚染</li> <li>交通</li> <li>材料</li> <li>水</li> <li>廃棄物</li> <li>健康と福利の革新性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー消費 (Energy Efficiency)</li> <li>資源循環 (Resource efficiency)</li> <li>地域環境 (Local environment)</li> <li>室内環境 (Indoor environment)</li> </ul>	<p>3つの主要カテゴリーについて評価され、各カテゴリーには以下のサブカテゴリーが含まれます。</p> <p>「エコロジー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー</li> <li>水資源の節約</li> <li>3R (リデュース、リユース、リサイクル)</li> <li>再生エネルギーの利用</li> </ul> <p>「リスク管理/快適性/多様性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テナントのセキュリティと安全性</li> <li>テナントの利便性</li> </ul> <p>「コミュニティとパートナーシップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観</li> <li>生物多様性</li> <li>地域との関わり</li> <li>オーナーとステークホルダーとの連携</li> </ul>
<b>要件</b>	<p>必須条件(認証レベルとは無関係)を満たすとともに、評価項目に関連したポイントを取得</p> <p>上記のポイントの合計に応じて LEED 認証レベルを取得することになります。</p> <p>LEED には異なるいくつかのレーティング・システムがあります。各格付レーティング・システムは、特定の分野(新築、大規模リフォーム、コア及びシェル開発、学校/小売/医療施設の新築及び大規模改築、既存不動産の運営及び保守)に適用できるように設計されています。</p>	<p>認証レベルに応じた必須条件を満たすとともに、評価項目に関連したポイントを取得</p> <p>取得したポイントは項目ごとに重み付けされ<sup>29</sup>、獲得した総合スコア(パーセンテージで表されます)に基づいて BREEAM 認証レベルの証明書が与えられます。BREEAM の項目の大部分には柔軟性があり、クライアントは BREEAM のパフォーマンススコアの作成に当たり、順守すべき項目を選択することができます。</p> <p>BREEAM には 2 つの段階と監査レポートがあります。評価基準が異なる「BREEAM 設計段階(BREEAM Design Stage)」と「建設後段階(Post Construction Stage)」です。</p>	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>CASBEE は、評価指標として BEE (Built Environment Efficiency) を用いています。BEE とは、Q (Quality) を分子、L を分母として算出される指標です。Q と L は 4 つの主要分野を分類し再構成して算定されます。</p> <p>建築物は、BEE の値が増加に応じて C ランク (劣っている) から S (素晴らしい) のランク判定を受けます。</p> <p>建築物は、地方自治体から認可を受けるために CASBEE の認証制度</p>	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>評価の仕組みは、以下の 3 つの柱で構成されています。</p> <p>1. 3 つの主要カテゴリー評価 グリーンビルディングの特徴・特性は、以下の 3 つの主要カテゴリーに分類されます。 エコロジー リスク管理と快適性/多様性 コミュニティとパートナーシップ</p> <p>各主要カテゴリーは 100 点満点となっており、5 つのサブカテゴリーで構成されています。評価全体</p>

<sup>29</sup> BREEAM の重み付け：マネジメント 12%、健康と福利 15%、エネルギー 19%、交通 8%、水 6%、材料 12.5%、廃棄物 7.5%、土地利用とエコロジー 10%、汚染 10%、革新性 10%。したがって、エネルギーの項目で取得した 1 点は、集計段階で汚染の項目で取得した 1 点の 2 倍の価値を持つことになります。

			<p>の評価書を取得する必要があり、当該評価書は地方自治体によって評価を受けます。</p>	<p>で 58 の質問で構成されています。</p> <p>2. 総合評価 従来の評価ポイントに加えて、オーナーの物件運営に重点が置かれており、「リスク管理」カテゴリーにおける防災・防犯対策や、「コミュニティとパートナーシップ」カテゴリーにおける地域の環境意識向上施策等が評価されます。</p> <p>3. 「イノベーション」ポイントシステム 加算ポイントシステムが適用されており、各サブカテゴリーにおいて特に革新的なイニチアチブが評価され加点されます。このような革新的イニチアチブは、規定の設問項目の範囲に限定されていません。</p> <p>上記の指標に基づき建築物の性能評価は JREI によって行われ、JREI 内に設置されたコミッティにより認証ランクの結果が判定されます<sup>30</sup>。</p>
<p><b>パフォーマンス表示</b></p>				
<p><b>定性的考察</b></p>	<p>世界的に認知され適用されています。</p>	<p>世界的に認知され適用されています。</p>	<p>日本では、多くの地方自治体が、建築許可審査の際に CASBEE 不動産評価認証の評価書の提出を義務付けています（他の同様のツールと比較して）。</p>	<p>DBJ Green Building 認証制度は、LEED と CASBEE と並んで日本のグリーンビルディングの評価基準の 1 つとして認知されています<sup>33</sup>。同制度のウェブページによると、2018 年 2 月現在、日本において 499 の不動産物件が当プログラムによる認証を受けています。</p>

<sup>30</sup>認証の流れ、DBJ Green Buildings : <http://igb.jp/flow.html>

<sup>31</sup>環境性能効率 (BEE)、CASBEE : [http://www.ibec.or.jp/CASBEE/CASBEE\\_outline/method.html](http://www.ibec.or.jp/CASBEE/CASBEE_outline/method.html)

<sup>32</sup>DBJ Green Building、日本政策投資銀行 : [https://www.dbj.jp/pdf/service/finance/g\\_building/gb\\_presentation.pdf](https://www.dbj.jp/pdf/service/finance/g_building/gb_presentation.pdf)

<sup>33</sup>Japan sharpens its green building focus, Read Views (英文) : <https://www.jllrealviews.com/places/japan-sharpens-its-green-building-focus/>



## 参考資料 2: J-REIT の ESG 評価の概要

### レーティング一覧

S ランク	素晴らしい
A ランク	大変良い
B+ ランク	良い
B- ランク	やや劣る
C ランク	劣る

### ESG の課題一覧

ESG 課題	指標	サブ指標	
ESG 全体	マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トップのコミットメント</li> <li>・ ESG マネジメント内部体制の構築</li> </ul>	
	ビジョンと方針		
	リスクと機会の管理	ESG/持続可能性に関連する重点課題、リスク、機会の特定	
	開示		
環境	ビジョン、方針、目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境に関するビジョン、方針、定量的目標</li> <li>・ 中長期的な CO2 排出量削減目標</li> <li>・ 環境目標達成度の評価</li> </ul>	
		リスクと機会の管理	
		ステークホルダーへの取り組み	テナント、サプライヤー、地域社会と共同で環境への取り組みを推進
	外部評価／外部認証取得		
	気候変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギー消費量の測定</li> <li>・ 再生可能エネルギーの使用</li> <li>・ スコープ 1、2、3 排出量の測定</li> <li>・ スコープ 1、2、3 排出量に関する外部認証の取得</li> <li>・ CO2 排出量削減活動の実施</li> <li>・ 自然との共生への配慮</li> </ul>	
		資源循環	水使用量と廃棄物量の測定と管理、水と廃棄物の消費低減

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

社会	ビジョンと方針	
	ステークホルダーへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入居者の健康、快適性、利便性、安全性、満足度</li> <li>・ 地域社会との関係</li> </ul>
	労働基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雇用（新規雇用者数、離職者数、平均勤続年数、産休後の復職/雇用維持状況の開示を含む）</li> <li>・ 労働時間の管理</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働時間短縮に向けた取り組みの実行</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有給休暇取得率の改善に向けた取り組みの実行</li> </ul>
人権		
ガバナンス	ガバナンスの構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営幹部が参加する ESG 委員会の設立</li> <li>・ 取締役会の実効性</li> <li>・ 取締役の選定</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資法人と資産運用会社のトップマネジメントの独立性</li> <li>・ 資産の健全性</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業価値、理念、行動規範の特定</li> <li>・ 従業員研修の実施</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腐敗防止に向けたトップマネジメントの取り組みの実行</li> </ul>
	取引先との関係	利害関係人との取引制限の実施
	コンプライアンス	コンプライアンス推進体制
	報酬とインセンティブ	役員報酬の体系

## 参考資料 3: グリーンボンド／グリーンボンドプログラム 外部機関レビューフォーム セクション 1. 基本情報

発行体の名称	三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
グリーンボンド ISIN コード／グリーンボンド発行体フレームワークの名称(該当する場合)	三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンドフレームワーク
レビュー機関の名称	サステイナリティクス
本フォームの記入完了日	2018 年 8 月
レビューの発行日: [本レポートが過去のレビューの更新版である場合、その旨を記載し、参照すべき元文書をご記入下さい]	2018 年 9 月

## セクション 2. レビューの概要

### レビューの範囲

レビューの範囲では、以下の項目を適宜使用/採用しています。

本レビューでは次の要素を評価し、グリーンボンド原則 (GBP) との整合性を確認しました。

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング            |

### レビュー機関の役割

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング(セカンドパーティ・オピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証     |
| <input type="checkbox"/> 検証                                     | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入して下さい)                       |                                 |

注: レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、レビューごとに別々のフォームを使用して下さい。

### レビューの要約及び/又はレビュー全文へのリンク(該当する場合)

上記のグリーンボンドフレームワークの概要とセカンドパーティ・オピニオン文書を参照願います。

### セクション 3. レビューの詳細

レビュー機関は、以下の情報をできるだけ詳細に提供し、コメントセクションを使用してレビューの範囲を説明することが推奨されています。

#### 1. 調達資金の用途

セクションについての総合的コメント (該当する場合)

グリーンボンドで調達した資金は、次の 2 つの基準のいずれかを満たすプロジェクトのファイナンス又はリファイナンスに充当されます。

##### クライテリア 1 – グリーンビルディング

- ・グリーンボンドで調達された資金は、J-REIT (日本の不動産投資法人) が保有する適格グリーンビルディングに対して三菱 UFJ 銀行が実行した新規又は既存の融資に充当される予定です<sup>34</sup>。
- ・適格グリーンビルディングとは、以下のいずれかの認証をグリーンボンドの発行日又はいずれかのレポート日からの遡り 24 カ月以内に取得または将来取得予定の不動産のことです。
  - LEED: Platinum 又は Gold (CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - BREEAM: Outstanding 又は Excellent (CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - CASBEE: S ランク又は A ランク (CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)
  - DBJ Green Building 認証: 5 つ星又は 4 つ星 (CO2 排出量を算出可能な不動産に限定)

##### クライテリア 2 – 再生可能エネルギー

- ・グリーンボンドで調達された資金は、太陽熱発電、太陽光発電、陸上及び洋上風力発電プロジェクトなどの再生可能エネルギープロジェクトに対する新規又は既存の融資に充当される予定です。
- ・すべてのプロジェクトは以下の適格クライテリアに適合する必要があります。
  - 以下の基準を全て満たす、新規及び既存の太陽熱発電、太陽光発電、陸上及び洋上風力発電プロジェクトにおける開発工事、運転又は施設拡張に関連する費用
    - i) 赤道原則のカテゴリー B 又はカテゴリー C に分類され、且つ、ii) グリーンボンドの発行日から 24 カ月以内に調印された新規又は既存の太陽及び風力発電プロジェクトの開発工事、運営、又は施設拡張に関連する支出

#### 資金の用途のカテゴリー (分類は GBP に基づく)

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> 省エネルギー             |
| <input type="checkbox"/> 汚染の防止と管理             | <input type="checkbox"/> 自然資源の持続可能な管理と土地の使用 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全 (陸上及び海洋)     | <input type="checkbox"/> クリーンな輸送            |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理           | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応           |

<sup>34</sup> DBJ Green Building 認証スキームでは、認証体が認証年度のみを開示しており、認証月日は開示されておりません。したがって、DBJ Green Building 認証を取得している物件については、認証日が 24 カ月以上遡る物件が資金用途となることがありますが、3 年以上遡る物件が資金用途となることはないことを、MUFG は明示しています。

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した製品、製造技術・工程  | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行の時点では確認されていないが、将来的に GBP のカテゴリーに適合するか、又はまだ GBP のカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入して下さい)      |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入して下さい(可能な場合)

### 2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的コメント(該当する場合)

適格グリーンプロジェクトの評価と選定における MUFG の内部プロセスはマーケット・プラクティスと合致しています。適格なプロジェクトと融資はそれぞれ三菱 UFJ 銀行のソリューションプロダクツ部によって選定されます。グリーンビルディングの選定は、適格クライテリアで概要が説明されているグリーンビルディング認証基準に基づいて行われます。グリーンビルディングに対する融資のうち、MURC の J-REIT 向け ESG 評価にて上位 3 ランクのいずれかを取得している J-REIT の「J-REIT 向け ESG 評価ローン」は、優先充当されます。再生可能エネルギープロジェクトに関しては、赤道原則などの国際基準が導入されています。適格プロジェクトを選定する際の最終判断は MUFG の CFO 室が行います。

#### 評価・選定

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体のサステナビリティ目標は、環境的改善効果をもたらす                          | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが適格カテゴリーの範囲に適合していることが判断される          |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトに関連した潜在的 ESG リスクを特定及び管理していることが判断される |
| <input type="checkbox"/> プロジェクトの評価・選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている                              | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入して下さい)   |

#### 責任に関する情報及び説明責任に関する情報

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 評価／選定のクライテリアについては外部機関による助言又は検証が必要 | <input type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入して下さい)                  |                                  |

### 3. 資金管理

セクションについての総合的コメント(該当する場合)

MUFG は三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを通じてグリーンボンドで調達した資金をモニタリングして追跡管理することを約束しているため、同社の調達資金の管理はマーケット・プラクティスと合致しています。調達した資金の全額を適格グリーンプロジェクトに直ちに充当されない場合、三菱 UFJ 銀行は未充当資金と同じ額を現金及び現金同等物、又は流動性の高い有価証券に投資します。



### 調達資金の追跡管理

- 発行体はグリーンボンドの調達資金を体系的に区別又は追跡管理している
- 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている
- その他(具体的に記入して下さい)

### その他の情報開示

- 将来の投資にのみ充当
- 現在の投資に充当
- 個別の支出に充当
- 支出ポートフォリオに充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示
- その他(具体的に記入して下さい)

## 4. レポーティング

セクションについての総合的コメント(該当する場合)

MUFG は少なくとも全額が充当されるまで 1 年毎に、また、重要な変化がある場合には適時に、調達資金の充当状況に関する情報を提供すること、及び、毎年インパクト・レポーティングを提供することを約束しています。サステナビリティクスによるコンプライアンスレビュー及びグリーンボンドで調達した資金の充当状況に関する経営陣のアサーションは全額が充当されるまで 1 年毎に提供されます。グリーンビルディングプロジェクト及び再生可能エネルギープロジェクトの CO2 排出量削減データと再生可能エネルギー源による発電量(kWh)で構成されるインパクト・レポートも提供されます。サステナビリティクスは、MUFG のレポーティングへのコミットメントの範囲と詳細さが、独立した外部機関の審査とともに、マーケット・ベスト・プラクティスと合致していると考えます。

### 資金使途のレポーティング

- プロジェクト単位
- プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク
- その他(具体的に記入して下さい)

### 報告される情報

- 充当額
- 投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

- その他(具体的に記入して下さい)

### 頻度

- 毎年  半年毎
- その他(具体的に記入して下さい):  
実質的な発展があった場合はタイム  
リーに実施

### インパクト・レポーティング

- プロジェクト単位  プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク  その他(具体的に記入して下さい)

### 頻度

- 毎年  半年毎
- その他(具体的に記入して下さい):実  
質的な発展があった場合はタイムリ  
ーに実施

### 報告される情報(予想又は事後の報告)

- 温室効果ガスの排出量/削減量  消費エネルギーの削減量
- 水消費量の削減  その他の ESG 指標(具体的に  
記入して下さい):再生可能エネ  
ルギーで生成された電力量  
(kWh)

### 開示の方法

- 財務報告書に掲載  サステナビリティレポートに掲載
- 臨時報告書に掲載  その他(具体的に記入して下さい):  
MUFG のウェブサイト
- レポーティングは審査済み(「審査済み」の場合、どの部分が外部審査の対象かを明示して下さい)

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記して下さい(該当する場合)

参考情報へのリンク先(例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク)

<https://www.mufg.jp/english/>  
<https://www.mufg.jp/english/csr/juten/sustainability/greenbond/>

参照可能なその他の外部審査(該当する場合)

提供レビューの種類

## 三菱 UFJ フィナンシャル・グループ・グリーンボンド

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証          |
| <input type="checkbox"/> 検証／監査                       | <input type="checkbox"/> レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）:           |                                      |

### レビュー機関

### 発行日

#### グリーンボンド原則（GBP）が定義するレビュー機関の役割について

- i. **コンサルタント・レビュー**: 発行体は、環境的な持続可能性、その他グリーンボンド発行におけるさまざまな面（発行体のグリーンボンドフレームワークの策定／レビューなど）について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関に助言を求めることができます。「セカンドパーティ・オピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- ii. **検証**: 発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、又は裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者（監査人など）に独立した立場からの検証を受けることができます。以下の認証と異なり、検証では発行体が作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的に持続可能な特性の評価も検証と呼び、外部のクライテリアを適用する場合があります。
- iii. **認証**: 発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、又は調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性を、資格要件を満たした第三者機関／認証機関が確認します。
- iv. **レーティング（格付け）**: 発行体は、発行するグリーンボンド、又はそれに関連するグリーンボンドフレームワークのレーティングを、資格要件を満たした第三者機関（専門的調査機関、格付機関など）から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンドフレームワーク／プログラムに適用されるもので、発行体の ESG レーティングとは区別されています。

## 免責事項

© Sustainalytics 2018.無断複写・複製・転載を禁ず。

このセカンドパーティ・オピニオン(「オピニオン」)に対する知的財産権はサステイナリティクスのみには帰属します。本オピニオンのいかなる部分も、サステイナリティクスが書面で明示的に同意しない限り、複写・流布したり、他の情報と混合したり、派生物の作成に使用したり、何らかの形で提供したり、第三者に開示したり、出版したりすることはできません。また、本オピニオンの一部、又は本オピニオンに電子的又は機械的に、あるいは複写機や録音を通じて何らかの形又は方法で記載された情報は、本オピニオンと並行して策定されている「グリーンボンドフレームワーク」と無関係に公表することもできません。

本オピニオンは、分析対象の債券が持続可能であり、責任を果たし、さらに特定の投資家ではなく投資家全般が使用できるようにしているとみなされる理由を説明するために作成されました。したがって、本オピニオンは情報提供のみを目的としており、サステイナリティクスは本オピニオンの内容に関するいかなる形の責任も、本オピニオン又は本オピニオンで提供される情報の利用に起因する損害に関する責任も、認めることはありません。

本オピニオンはクライアントから提供された情報に基づいて作成され、その情報は「そのまま」提供されているため、サステイナリティクスは本オピニオンに提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証しておらず、誤差脱漏に対する責任を負うこともありません。第三者の名称への言及は、所有権を適切に承認するためであり、係る所有者によるスポンサーシップ又は支援を裏付けるものではありません。

本オピニオンに記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、投資可能な資産やポートフォリオへの投資又は企業の参加の助言を表示・保証・表明・示唆するものとみなすことはできません。また、本オピニオンに記載されたいかなる内容も、(適用可能な法域において定義されている)投資アドバイスとみなしたり、経済的パフォーマンスや債券の信用力の評価と解釈したり、調達資金の効果的な充当に焦点を当てたものと解釈したりすることはできません。

クライアントは自らの行動の適法性・実行・監視について、認証の取得や確実な実施の全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に不一致がある場合、英語版が優先されます。

## サステナリティクスについて

サステナリティクスは、環境・社会・ガバナンス(ESG)とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資(RI)戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。また、サステナリティクスは Global Capital 社により「2017 年もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018 年には、Climate Bonds Initiative 団体及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定されました。サステナリティクスは、2018 年に、日本のグリーンボンド市場の成長に対する弊社の貢献に対し、一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞しております。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照、又は

[info@sustainalytics.com](mailto:info@sustainalytics.com) にご連絡下さい

